東京慈恵会医科大学
葛飾医療センターニュース
Katsushika Medical Center News
2021
No.60
winter

編集発行責任者　吉田 和彦
〒125-8506　東京都葛飾区青戸6-41-2
TEL:03-3603-2111（代表）
URL:http://www.jikei.ac.jp/hospital/katsushika/
E-mail:aotokouhou@jikei.ac.jp

INDEX

01.「学祖･高木兼寛と渋沢栄一」
02. 診療科紹介（循環器内科）
03. 診療科紹介（糖尿病･代謝･内分泌内科）
04. 葛飾医療センターにおけるSDGsの取り組み

SERIES-1
「慈恵大学と渋沢栄一」

「学祖･高木兼寛と渋沢栄一」

「渋沢栄一が肖像、新一万円札印刷開始」2021年9月1日のNHKニュースが報じました。2019年に財務省から新一万円札の表図柄が渋沢栄一になると発表され、それに続いて2021年度大河ドラマ「青天を衝け」の制作が決まり、渋沢栄一は再び、時の人となりました。そういえば、「青天を衝け」の脚本家大森美香氏は2015年のテレビ小説「あさが来た」でも主人公の銀行設立や日本女子大学創設の支援者として渋沢栄一を登場させていましたね。実は渋沢栄一は慈恵大学にとっても多大な貢献をいただいた恩人なのです。

「病気の必ず回復すべきを確言せられたり。」

高木 兼寛

2011年に刊行された「東京慈恵会医科大学130年史」に渋沢栄一のひ孫にあたる渋沢雅英氏の「特別寄稿:高木兼寛先生と渋沢栄一」が掲載され、微笑ましいエピソードが綴られています。『不思議なことに渋沢栄一という人は日本が戦争をする度に病気にかかるという不思議なジンクスを生きてきました。（中略）91歳という長寿を保った人ですが、病気にかかると、ちょっとした風邪でも大げさに考えて、ひどく弱気になる傾向があったようです。』主治医だった高木兼寛は、その度に悲観論を退け力強く励ましていました。渋沢栄一自身が『先生は断固として是を斥け、病気の必ず回復すべきを確言せられたり。此の時も果たして快癒して今更に先生の明晰を感謝したりき。』という一文を残しています。高木の優れた医療への尊敬と、恩返しという意図もあったのか、1907年に社団法人東京慈恵会が発足すると副会長と財務担当者を引き受け、経営の全般に亘って支援します。当時の多くの有力者が募金に協力しましたが、渋沢家では妻や娘から孫の嫁まで20名余りの女性がそれぞれ拠金されています。

「公益慈善事業には強い思い入れを持っていました。」

渋沢 栄一

1931年に渋沢栄一が亡くなった後は孫の渋沢敬三氏が東京慈恵会の役員を引き継ぎ、支援は継続されました。再び渋沢雅英氏の寄稿文から、『私の母の登喜子も、他の親類とともに栄一の遺志に沿って、毎月いくらかの寄付を終戦まで続けていたことを覚えております。明治初年以来60年近く東京養育院の院長を務めるなど、栄一は公共慈善事業には強い思い入れを持っていました。長い生涯を通じて470という企業の設立や運営に関与しましたが、支援した公益や慈善事業の数はそれを上回り、600を超えていたと云われています。』渋沢栄一は日本資本主義の育ての親として有名ですが、多くの非営利の社会事業:社会福祉事業や医療事業、教育事業にも関わりました。そして、貧しい人々を無料で診療する施療病院経営や医療者教育に取組む高木兼寛を支援し続けたのです。

参考文献：「東京慈恵会医科大学130年史」

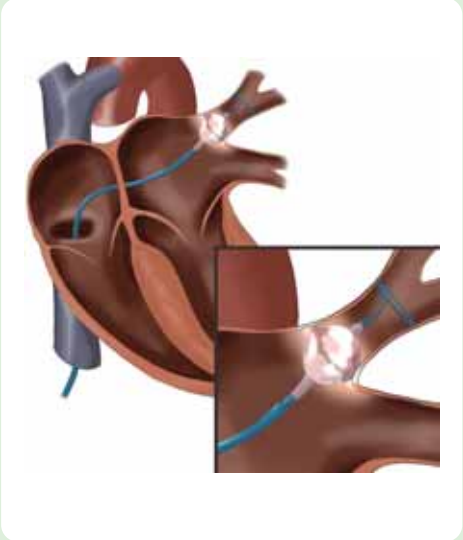
診療科紹介

循環器内科

●心臓カテーテル治療　ロータブレーターとアブレーション

循環器内科の治療の現況についてご紹介いたします。

東京城東医療圏の循環器医療の中核的な役割を担っており、東京都CCUネットワークの加盟施設です。血管内治療室は2室あります。24時間、365日、循環器内科医師が院内に待機しており、急性心筋梗塞などの救急医療に随時対応しております。本年よりローターブレーターを用いた治療も開始し、高度石灰化を伴う重症冠動脈狭窄病変に対する治療も積極的に行っています。重症例には集中治療室（CCU）にて、人工呼吸器や補助循環装置（大動脈バルーンパンピング、ECMO）などを用いた全身管理を行っています。下肢の間欠性跛行などの症状を伴う閉塞性動脈硬化症に対しては、下肢動脈に対するカテーテル治療も行っています。



また不整脈は時に命に関わる恐ろしい病気ですが、多くは根治が可能な時代になってきています。不整脈チームは本年度よりメンバーが新しくなり、慈恵医大本院より赴任した徳田道史講師を中心に3人体制で治療にあたっています。引き続き不整脈のカテーテルアブレーション（心臓の筋肉を焼灼する治療）に力を入れており、特に心房細動に対するアブレーション経験数が豊富です。中でも、近年急速に普及してきた冷凍バルーンに関しては日本導入当初より指導的役割を果たしてきました。冷凍バルーンは従来の熱エネルギーを用いるアブレーションと同等かそれ以上の効果がありながら、合併症が少なく、手術時間も短いことが報告されています。より安全なデバイスにより、心房細動アブレーションの適応年齢は上がってきています。以前は75歳くらいが限界とされていましたが、最近は80歳以上でも治療が可能になってきています。有効な治療に際して大事なことは早期発見と早期治療です。

常に安全かつ最善の医療の遂行を心掛けています。胸の圧迫感や息切れ（特に階段や歩行時）、動悸、倦怠感やむくみなどの症状がありましたら、お近くのクリニック・医療機関を受診し、心臓病が疑われた場合には、慈恵医大葛飾医療センター循環器内科への紹介をお願いしてください。また医療機関におかれましては、循環器及びその周辺症状などでご不明な点があれば、重症・軽症に関わらずご相談ください。

●循環器内科　診療部長　関 晋吾

実績

●2020年度
月平均外来患者数1,320人、入院患者数877人、
総カテーテル件数750例、冠動脈撮影診断332例、
カテーテル冠動脈形成術180例、カテーテル・アブレーション227例、
ペースメーカー植え込み術42例

診療科紹介

糖尿病・代謝・内分泌内科

●コロナ禍で気になる血圧、血糖、体重について

血圧が高い方、血糖が気になる方、体重が気になる方、たくさんいらっしゃると思います。何の症状もないから気にならないよという方々も多くいらっしゃると思います。先般、新型コロナウイルス感染症が話題となり、重症化したり入院したりする感染患者さんのなかに高血圧の方、糖尿病の方、肥満の方が大変多いことは皆様もテレビでご覧になったことがあるのではないでしょうか。自分では何の症状もないから検診も受けず、健康だったと思っていた方々のなかに、今回の新型コロナウイルス感染症が流行したことを契機に、実は何の症状もない血圧や血糖や体重がとても大事で、ちゃんと気を付けなければいけないのだなと改めて感じられた方もいらっしゃることでしょう。

さて、高血圧症のなかに、ホルモンの病気で血圧が高くなっている場合があるのを皆様ご存知ですか？普通の高血圧と同じなので塩分制限をしたり、減量したり、血圧の薬を飲んだりして何となく治療を続けておられる方の10人に1人がこのホルモンによる高血圧症であるとも言われています。そしてそのほとんどが実は精密検査を受けずに見過ごされているケースが多いのです。そして、ホルモンの病気で高血圧になっている方のなかに、ホルモンの病気を治すことにより血圧のお薬が減り、要らなくなることがあります。もしかかりつけの先生に血圧の治療を受けてもらっているけどこの記事を読んで気になる方がいらっしゃいましたら、ぜひ当センターの糖尿病・代謝・内分泌内科へ紹介するよう伝えてください。最初は簡単な問診で血圧のお薬を整理したうえで、別の日に外来で朝30分、安静臥床していただき、血液や尿検査を行います。CTやエコー検査が必要になる場合もあります。もしホルモンの病気が疑わしい結果が出た場合は1週間入院していただき、精密検査を受けることになります。

糖尿病に関しては血糖のコントロールが悪い人ほど新型コロナウイルス感染で重症化することも明らかになっています。そのコントロールが悪い方のなかに肥満の方も多くいらっしゃいます。糖尿病・代謝・内分泌内科では専門の医師、看護師、管理栄養士、薬剤師がチームで患者さんの生活習慣、薬の使い方について支援いたします。外来でも対応いたしますが、生活習慣の改善が困難な場合は教育入院で対応させていただきます。現在かかりつけの先生がいらっしゃる場合でも、糖尿病のみ当院で対応させていただき改善されたらかかりつけの先生にお戻りいただく、あるいは併診という形で二人の主治医を持つことも可能です。長年診ていただいているかかりつけの先生に申し訳ないということでしたら、併診をご提案させていただきますので、どうぞお気兼ねなくご相談ください。

コロナ禍で生活習慣病が注目されている今だからこそ、ご自身の体を少し丁寧にみてもらう機会をつくりませんか？　我々、糖尿病・代謝・内分泌内科がサポートさせていただきます。

●糖尿病・代謝・内分泌内科　診療部長　横田太持

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

葛飾医療センターにおけるSDGsの取り組み

葛飾医療センターはSDGs（持続可能な開発目標）の目標「7.エネルギーをみんなにそしてクリーンに」と「13.気候変動に具体的な対策を」の達成に向けて取り組んでいます。SDGsとは、「誰一人取り残さない」持続可能で多様性と包摂性のある社会の実現のため、2030年を期限とする環境・人権・平和に関する17の国際目標であり、葛飾医療センターは社会的責任を果たすべく中長期事業計画の取り組み項目中の一つとして掲げています。

昨今の自然災害は河川の氾濫により、堤防が決壊して橋や車が流され、家屋が浸水する様子がニュースでも大きく報道され、年々私たちの生活を脅かすものとなっています。2019年に発生した台風19号の接近時には当センターの近隣を流れる中川についても自治体が避難の呼びかけなどを行う目安となる避難判断水位となるなど、地球温暖化による気候変動の脅威を目の当たりにした経験により、SDGsへの取り組みの必要性を強く感じています。

当センターではSDGsの目標達成に向けた取り組みとして、基本設計コンセプトの一つである良質な医療を地域の皆様に提供し続けるとともに、地球環境に配慮し、省エネルギーに貢献する設備を積極的に採用しています。一例として、一部トイレの洗浄水の水源として雨水を処理して利用しており、節水型の衛生器具および高効率の照明器具・冷暖房設備も採用しています。また、余剰照明の減灯によるロスエネルギーの削減、グリーン電力証書の購入など、省エネルギーと二酸化炭素の排出量を抑制することで環境負荷の低減に配慮しています。また、これらの省エネルギー関連設備をより効率的に運用するためのエネルギーマネジメント契約を締結しており、エネルギー利用の効率化を日々推進しています。

葛飾医療センターは、これからも病院に求められる公共性、快適性を実現する空間を目指し、経済性と高い安全性を有するとともに、将来にわたって世界中の人々が豊かに暮らしていける持続可能な社会を作ることに貢献するため、地域の皆様へ安心・安全な医療を提供する地域密着型の病院を目指し診療を行ってまいりますので、どうぞ宜しくお願いいたします。